まほろん通信

Fukushima Cultural Property Center Shirakawa since2001

2021 夏号 VOL.80

まほろんは
今年開館20周年!
表紙は、2009年開催
「まほろん夏まつり」のようすだよ

まほろんでは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。
特に体験活動については、職員との接触や近距離での活動を控えております。
ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 企画展「文化財をよみとく科学のチカラ」担当者インタビュー
- 発掘よもやま話　丘の上の小さな砦
- 収蔵資料紹介　赤外線写真でよみとく文字資料
- 思い出まほろん　野外展示ができるまで

企画展

「文化財をよみとく科学のチカラ」

担当者インタビュー

7月22日開幕の企画展「文化財をよみとく科学のチカラ」の見どころにせまります！

文化財と、科学…？

矢吹町
弘法山古墳群出土
首飾り

二本松市
塩沢上原A遺跡出土
縄文土器

どんな展示？

わたしたちが遺跡や出土資料を考えるとき、あらゆる視点が必要になります。今は失われてしまった当時の環境は？目には見えない構造や材質は？この文化財はどうやって作られたんだろう？作られた年代は？この文化財を守るにはどうすればいいのか…、などなど、謎がいっぱいです。

今回の展示では、それらの謎を解明し、さまざまな情報を文化財から引き出す科学のチカラに焦点をあてました。

科学のチカラでよみとかれたまほろん保管資料を、その手法の紹介とともに展示します。

子どもも楽しめる？

「科学」、というととっつきにくい印象を持たれる方もいるかもしれませんが、図や映像も豊富で、わかりやすい解説も準備していますので、楽しんでみていただければいいなと思います。

みなさんが小学校や中学校で習ったことも出てきますし、健康診断で使うエックス線透過撮影を、文化財も同じように使っていますから、なんとなく親近感をもってもらえるのではないでしょうか。

見どころおしえて！

さながら、研究室にいるような雰囲気で展示を楽しめる点です。今回の展示では、赤外線カメラなど、実際に文化財の調査に使用する機械も展示しています。なかなか目にすることのない貴重な機会なので、興味を持ってもらえればと思います。

担当者の　中尾 真梨子 副主任学芸員

最後にひとこと！

文化財と科学という、普段はなかなか触れることのない、ちょっと変わった展示になっています。この展示を通じて、「なるほど！こうなっていたのか！」と思っていただければ幸いです。

表紙の1枚

2009年のまほろん夏まつりのようすです。ご来館のお子様方の服装から暑い夏の一日だったことが思い起こされます。お客様の前に立つのは、故・藤本強元館長です。日本を代表する考古学者で、まほろん開館時から2010年までの約10年間、初代館長を務められました。在りし日の姿が偲ばれます。

まほろん公式SNS　随時更新中！　フォロー＆チャンネル登録お待ちしています！

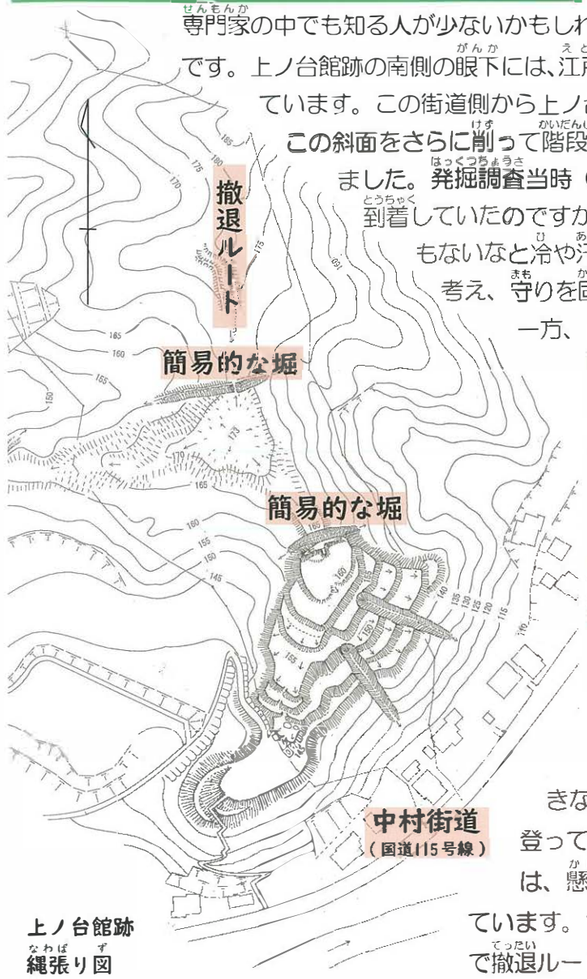
YOU TUBE　INSTA GRAM

発掘よもやま話

丘の上の小さな砦

文：鶴見 諒平（副主任学芸員）

福島の市街地から相馬方面へ車を走らせること30分、眼下に、道の駅「りょうぜん」を見おろす小高い丘に、「上ノ台館跡」とよばれる中世の砦跡があったことは、専門家の中でも知る人が少ないかもしれません。今回はそんなマニアックな土づくりの砦跡のお話です。上ノ台館跡の南側の眼下には、江戸時代に「中村街道」とよばれることになる、幹線道路が通っています。この街道側から上ノ台館跡を仰ぎ見ると、自然の岩肌が露出した急斜面に加え、この斜面をさらに削って階段状に整えた「切岸」とよばれる防御施設がそそり立っていました。発掘調査当時（2017、2018年）、私はこの南斜面を毎朝登って現場に到着していたのですが、もしこの瞬間に上から石でも落ちてきたら、ひとたまりもないなと冷や汗をかいたものです。おそらく戦国時代の人々も同じことを考え、守りを固めたのではないかと思うと武者ぶるいがします。



上ノ台館跡
縄張り図

一方、この丘の最も高い所には、簡易的な堀で区切られた平場があるのですが、発掘調査を行っても建物跡などは発見できませんでした。また、当時の幹線道路から見ることができない北側の斜面は人の手が加えられておらず、比較的簡単に登ってくることができます。そして最高所から北にのびる尾根道は、懸田氏（伊達氏の重臣）の居城「懸田城」の城下につながっています。つまり街道から見えないところは、防御が薄く、懸田城まで撤退ルートを確保したつくりになっています。

簡易的な堀の検出状況（北から）

このようなことから上ノ台館跡は、幹線道路を行き交う敵方の動きに備えることに特化した「砦」の役割を担っていたのかもしれません。大規模な山城の近くの山中には、上ノ台館跡のような簡易的で小規模な砦跡がこれからも発見されるかもと思うとワクワクしますね。

赤外線写真でよみとく文字資料

文：福田 秀生（副主幹）

墨で文字や絵が書かれた墨書土器や木簡などは、文字が書かれた時点から発掘調査で見つかるまでの長い間に風化したり、出土した後に空気にさらされて急激に文字が見えなくなる場合もあります。

そうした見えにくくなった文字を読むには、文字を書いた墨などに含まれる炭素を吸収する性質を利用した「赤外線カメラ」が有効です。写真1は当館収蔵の玉川村江平遺跡から出土した木簡で、出土直後に撮影したモノクロ写真です。この木簡も赤外線カメラを用いて判読しています。

夏の企画展「文化財をよみとく科学のチカラ」では、最新の科学分析や調査方法によって、遺跡の成果や新たに解明できた事例を紹介する企画です。まほろんの「科学のチカラ」にご期待ください。

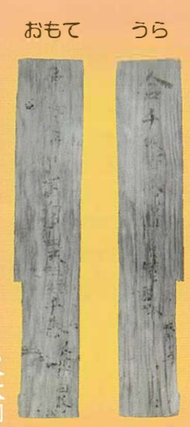


写真1
玉川村
江平遺跡出土 木簡

思い出まほろん

野外展示ができるまで

担当職員に聞く

聞き手：門脇 秀典（専門学芸員）

まほろんには、かつて「ふくしま」にあった建物や築造物を実感できる施設として、「縄文時代の家」・「前方後円墳」・「奈良時代の家」・「奈良時代の倉庫」・「平安時代の製鉄炉」・「室町時代の館」が復元されています。今回は、開館前にこれらの施設の建設に携わった今野徹さん（現当財団遺跡調査部）に思い出話をお聞きしました。

●「縄文時代の家」の復元のモデルとなった竪穴住居跡は、法正尻遺跡（猪苗代町・磐梯町）のものが選ばれています。相当苦労されたのではないですか？

今野：当初、もう少し小さな住居で計画していたのですが、「見学に来た小学生がみんなで一度に入れる方がいい」とより大きな66号住居跡の図面をもとに書き直しました。そうすると予定地から大幅にはみ出していることがわかり、現在の形になりました。

竪穴住居の細部の復元については、萱葺き職人の方と話し合いをしながら進めました。その中で「こだわるなら、萱をしばるのは、市販品の縄ではなく本物の麻の繊維を使いましょう」ということになり、福島県庁の薬務課から特別に許可をもらって、厳重な管理のもと、まほろんで麻を栽培しました。その栽培記録は映像として残しました。

●「奈良時代の家」は、当初、床面にスノコが敷いてあった記憶があります。なぜですか？

今野：最初は「人は絶対、直接地面には寝ない」と考えていました。なのでスノコ状のものを敷けば快適になるだろうと。でもこれが全くの逆効果でスノコの下から虫がわいたり、床が踏み締まらないのでモグラが無数に穴をあけたりしました。

●「奈良時代の倉庫（正倉）」も、当初の計画から変更がありましたか？

今野：モデルになった関和久遺跡2号建物跡からは少量の瓦しか出土しておらず、板葺きの屋根だった可能性も考えました。そこで専門家の先生のご意見をいろいろお聞きして、最終的には礎石を用いた建物であれば、瓦葺きであった可能性が高いだろうとの結論にいたりました。それから愛知県安城市の瓦職人さんのところに行って、わざわざ色ムラがあるように焼いてほしいと、頼み込んだりしましたね。

●その後、開館3年目に「奈良時代の家」は火事で全焼してしまいました。ショックだったのではないですか？

今野：深夜に起きた火事だったのですが、あっという間に燃え尽きてしまいました。その直後は、県民の皆様に申し訳ない気持ちで、私は何もできずにうなだれていました。ただ、「こういう時だからこそ、燃え方や復元品がどのように散乱したのかをちゃんと記録にとろう」と冷静に話す学芸員がいて、ようやく立ち上がることができました。

●野外展示施設の復元を担当して、よかったと思うことは？

今野：最初は、復元図や模型を作ったりしていろいろ考えました。でも工程が進むにつれて、様々な意見や問題点が出てきます。それらに臨機応変に対応し、職人さん達の声を聞くことで、なんとかなるものだと思いました。人間が作ったものを復元するのだから、「人間力」を試されていたのだなぁと思います。

縄文時代の家

まほろんの主な今後の予定

※各講座・講演会は事前申込制です。
※新型コロナウイルス感染拡大状況等により予定が変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせ頂くか、まほろんのホームページをご覧ください。

7/22（木）から 9/20（月）
企画展「文化財をよみとく科学のチカラ」

7/31（土）第1回館長講演会「人類史と酒」
定員 24名　7/1（木）午前 10 時から申込受付開始

8/8（日），29（日）実技講座「大堀相馬焼に挑戦」
定員 12名　7/8（木）午前 10 時から申込受付開始

8/21（土），22（日）
文化財科学講座 1「シンポジウム　鉄の道をたどる」
定員 24名　7/21（水）午前 10 時から申込受付開始

9/5（日）文化財科学講座 2「文化財科学最前線！」
定員 24名　8/5（木）午前 10 時から申込受付開始

9/18（土）
第 2 回館長講演会「演題未定」
定員 24名　8/18（水）午前 10 時から申込受付開始

10/3（日）
実技講座「土偶づくり」　定員 8名程度
9/3（金）午前 10 時から申込受付開始

編集後記

開館20周年を迎えるにあたり、まほろん通信では、過去を振り返る記事も掲載しています。過去の写真を見返すと、へえ！こんなことがあったんだ、と新鮮な気持ちになります。まほろんのこれまでを再発見する、懐かしい、けれど新しい編集作業となりました。

まほろん通信 vol. 80
令和3年7月7日発行

開館時間　9：30 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）
休 館 日　月曜日（8月9日と9月20日は開館／月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日）／国民の祝日の翌日（土・日曜日に当たる場合は開館）／年末年始（12月28日～1月4日）
入 館 料　無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

お問い合わせ
まほろん
福島県文化財センター●白河館
〒961-0835　福島県白河市白坂一里段 86
☎　0248-21-0700
fax　0248-21-1075
ホームページ　まほろん　検索